

## 討議概要

提言された地域活性化事業の実現に向け討議が行われましたが、提言された事業には過去に類似の取組みもあり、①既存の取組みとの兼ね合いや、ボトルネックを踏まえた検討、②現状の課題を裏付ける分析結果の活用など、引き続き WG において実現に向けた検討を進めていくこととなりました。各事業における主な意見等は次のとおり。

### ①地域の魅力を伝える「カシオペアブランド」発掘・発信事業

カシオペア地域にある資源の良質かつ上質な「カタログギフト」を制作し、クロスメディアにより、地域の魅力を発掘・発信することで、従来以上の収益確保にもつなげる。

- ・ 4 市町村の地域資源をピックアップし、ブランド化につなげるアイデアには賛同。
- ・ 当地域には「トリコロール」という上質な広報誌もあり、既存のものもうまく活用すべき。
- ・ 安易に広告代理店に委ねるのではなく、優秀な地元の若手自らが企画することが大事。

### ②遊休農地を利用した漆原木の確保

国宝・重要文化財の修復需要に応えるべく、国産漆の 7 割以上のシェアを占める「浄法寺漆」の更なる生産量を確保するため、遊休農地への植栽をカシオペア地域で勧めていく。

- ・ 漆の技術があることはこの地域の強み。スピード感をもって取り組むのが大切。

### ③カシオペア地域の特産物を使ったカシオペア丼（仮称）の提供事業

カシオペア地域の特産物を使ったカシオペア丼を提供することにより、域内での特産物の消費を促すとともに、地域内外に特産物を効果的に PR する。

- ・ 過去にコンビニ販売まで至った「鶏南蛮丼」も活用する必要があるのではないか。
- ・ 当地域にある三大ミートをもっと展開し、地元消費にもつなげる工夫が必要ではないか。

### ④カシオペア地域共通商品券事業

域内の消費を喚起するため、カシオペア 4 市町村で利用可能な共通商品券を発行する。

- ・ 各商工会等で発行している商品券は、地域内での消費確保も目的の 1 つであるところ、4 市町村で利用可能な商品券が導入された場合、流入より流出が多くなることが懸念。
- ・ この事業の対象は地域住民と観光客のどちらか。仮に、地域住民向けの場合、商業者にとっては死活問題となるため、実施にあたっては、商業者の意見も聞きながら進めるべきではないか。

### ⑤カシオペア周遊ツアー企画事業

域内の観光セクションと民間旅行事業者が連携し、カシオペア地域を周遊できるツアーを企画する。

- ・岩手県と市町村が一体で進めている「ぐるタク」事業を発展させる議論が必要。

### ⑥ロードサイド観光拠点の整備

カシオペア地域内の市町村間を結ぶロードサイド（幹線道路）沿いに、地域内の特産品を取り扱う観光拠点を新たに設置することで、集客力向上及び滞在時間の拡大を図る。

- ・既存の産直との競合をどのように整理するか検討が必要。
- ・地域観光の総合窓口となる道の駅や地域拠点として「福祉サービスの向上」機能をもった道の駅など様々あるが、「道の駅」という選択肢を含め、どのような観光拠点の形態が望ましいか検討する必要があるのではないかな。

### ⑦カシオペア地域連携 DMO の設立

カシオペア地域の観光地域づくりの舵取り役としての役割を担う法人を設置し、様々な広域連携策を機動的、継続的に実施するための態勢を整備する。

- ・DMO の設立を一番の柱として検討し、大きな成果に持っていくべき。
- ・まず先進地である三陸 DMO 及び宮古 DMO の研究を行ってフィードバックし、それを踏まえカシオペア連邦型を目指すのが大事。

### ⑧農家の直売所事業

地域の農作物を集荷場に集め、原則 1 日で都市部のスーパーに出荷。生産者の利益向上、農作物の PR、廃校の利活用などのメリットがある。

（内容）

農家が生産した農産物を当社が提携する集荷場を経由し、原則 1 日で都市部のスーパーなどに出荷し、新鮮な野菜を消費者へ届ける仕組み。IT を駆使し、農産物の販売状況が農家にフィードバックされることで、農家はその情報を基に別の販売先の選定や、価格変更が可能となるため経営力強化などが期待される。

本県の農家の所得向上や経営力強化はもとより、地域産業の活性化、ひいては本県の基幹産業である農業の発展につながる取組みであると考えている。

### ⑨重要伝統的建造物群保存地区制度の紹介

「重要伝統的建造物群保存地区」の選定（文化庁）を受け、古民家を宿泊・飲食施設などにリノベーションを行い観光客の誘致につなげる。

（内容）

昭和 50 年の文化財保護法の改正により当制度が発足し、城下町や宿場町、門前町など、全国各地

に残る伝統的な集落や街並みの保存が図れるようになった。

県内では平成13年6月に金ヶ崎町の保存地区が唯一選定されており、武家町の街並みを保持しているとして、建造物などが保存されている。

現存する歴史的資源を有効活用する取組みは観光客誘致にも有効な手立てと考えられる。

#### ⑩カシオペア地域内での物産展・商談会事業

地域内の業者間による商談の場を設け、コラボ商品開発や創業などにつなげるほか、地域住民の参加による特産物の認知度向上を図る。

(内容)

特産物の付加価値化という観点から、カシオペア地域の業者間で物産展や商談会なども必要。地域内の業者間による商談の場を設け、コラボ商品開発や創業などにつなげるほか、地域内への特産物の認知度向上から県内、東北、全国へ商品を発信することにつながると考えている。

【感想】東北財務局 安藤総務部長から、以下のとおり感想が述べられた。

《感想》

WGからの提言について、せっかくの提言であるが、問題点も残るため、ブラッシュアップしていかなければならない。一つ一つ問題を解決し、地道に実現に向かっていくことが必要である。

また、4市町村が連携し、一致団結して地域活性化に取り組むことが重要となるため、今後も地元の金融機関など関係機関と協力しながら検討していくことをぜひお願いしたい。

